

令和4年度 和泉市学習状況調査結果概要

○ 児童生徒質問紙調査について

子どもたちの学習や生活状況に関する児童・生徒に対するアンケート調査は、小・中学校ともに69項目の質問からなります。

質問の内容は学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するもので、質問ごとに用意された選択肢から一つを選ぶ方式です。過去の全国学力・学習状況調査からも、基本的な生活習慣と学力とは相関関係があることが分かっています。今年度の和泉市の調査結果を全国の公立学校の調査結果、過去の全国学力学習状況調査の和泉市の調査結果と比較し、下記の6項目に沿って、和泉の子どもたちの様子について分析しています。

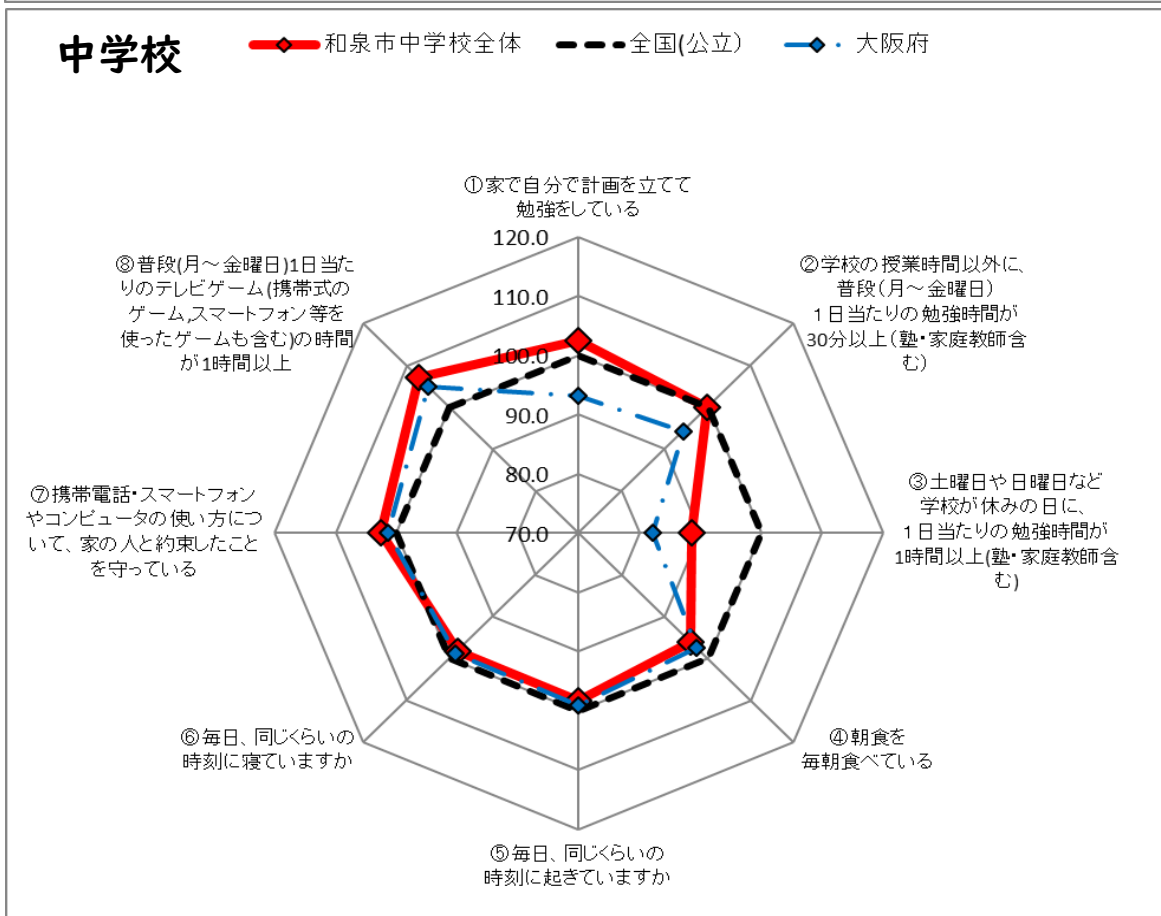
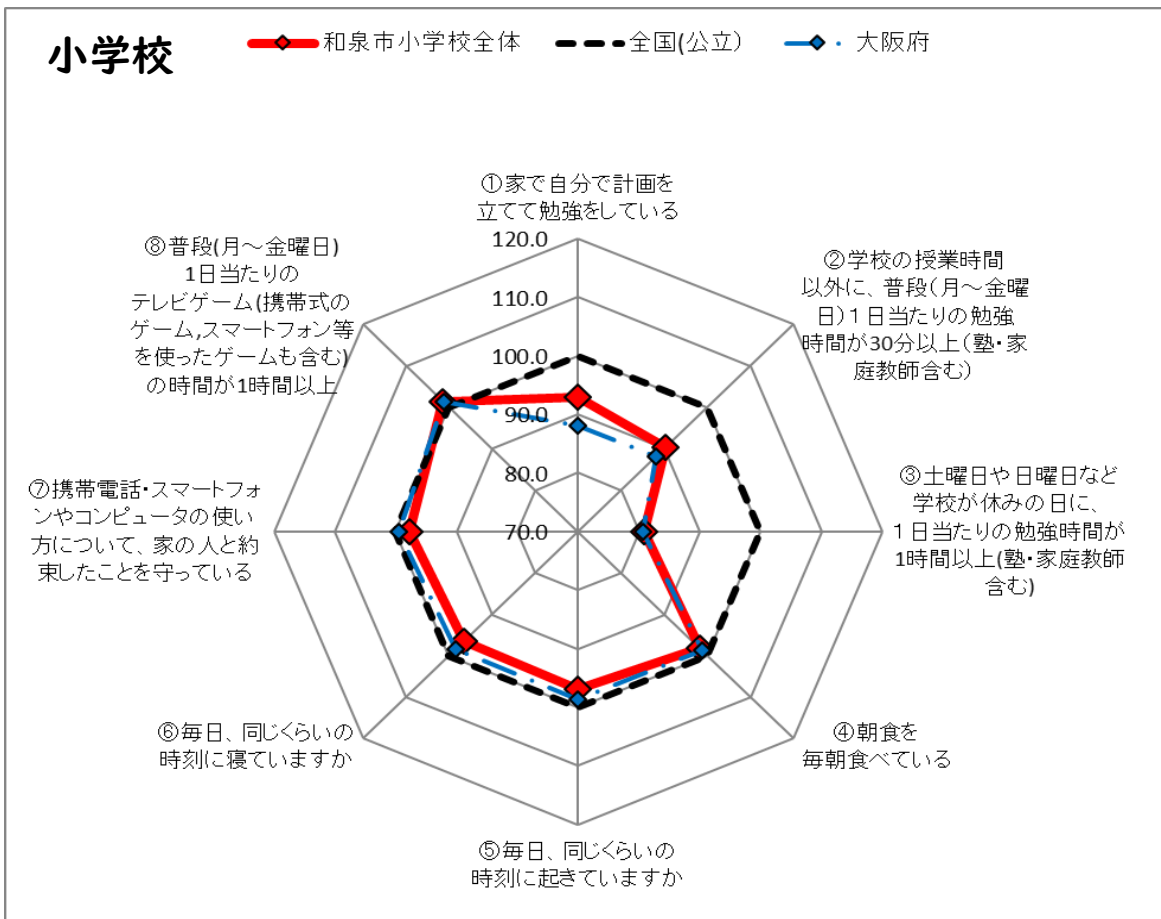
和泉市の子どもたちの様子について

1. 生活リズムが身についている子ども
2. 自分を大切にし、他者を思いやる子ども
3. 多様性を認め、いじめを許さない子ども
4. 自らすすんで読書や学習をする子ども
5. 地域と関わり、ふるさと和泉を愛する子ども
6. 楽しく学び続ける子ども



◎児童生徒質問紙の中で、代表的な項目について、市全体の結果をレーダーチャートに表したものです。
 ※全国(公立)の結果を100として、表しています。

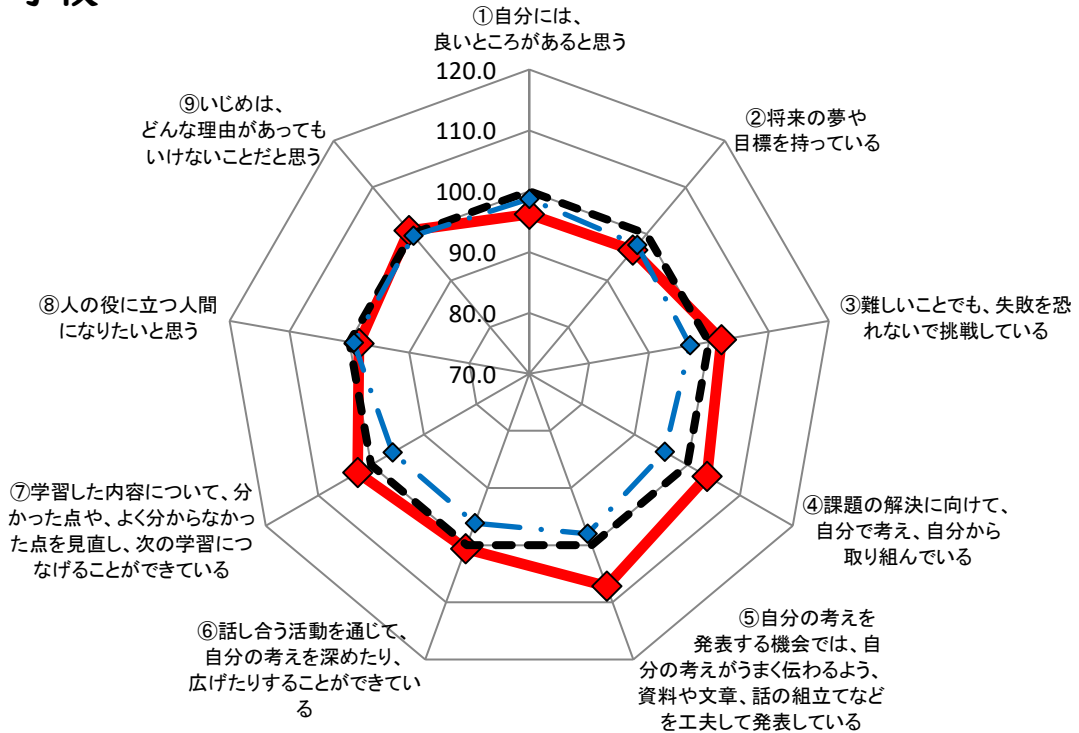
「基本的生活習慣」「学習時間等」「規範意識」について



「自分に関すること」「学習状況」について

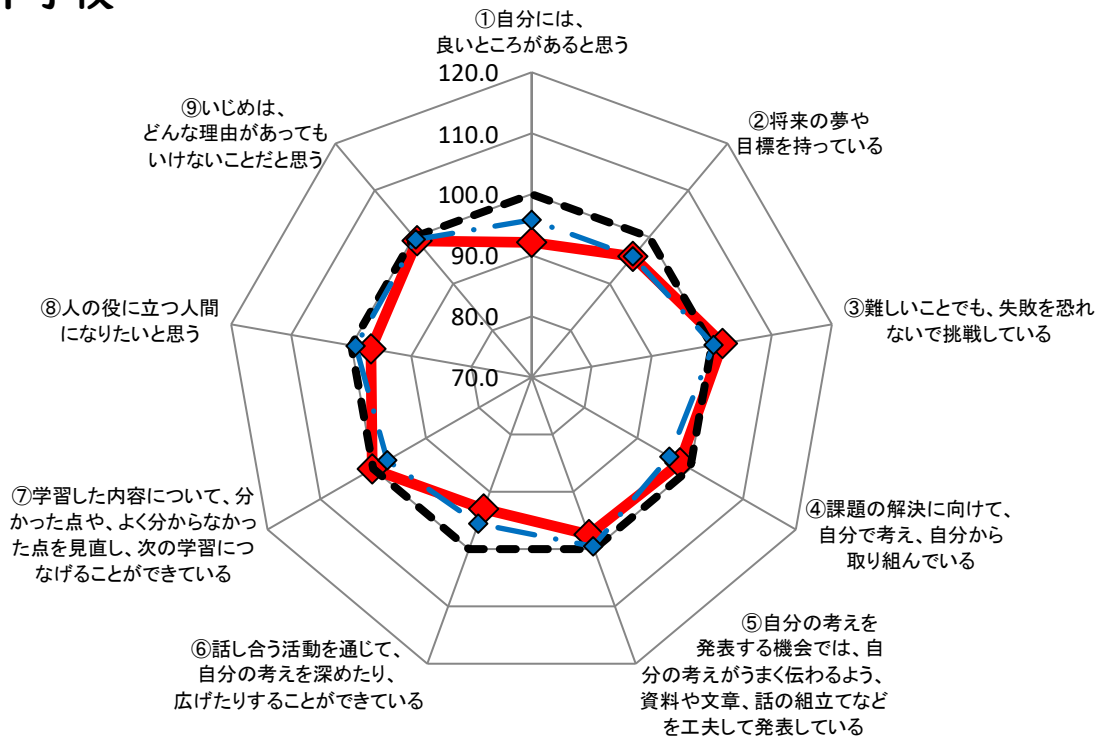
小学校

◆ 和泉市小学校全体 - - - 全国(公立) ◆ 大阪府

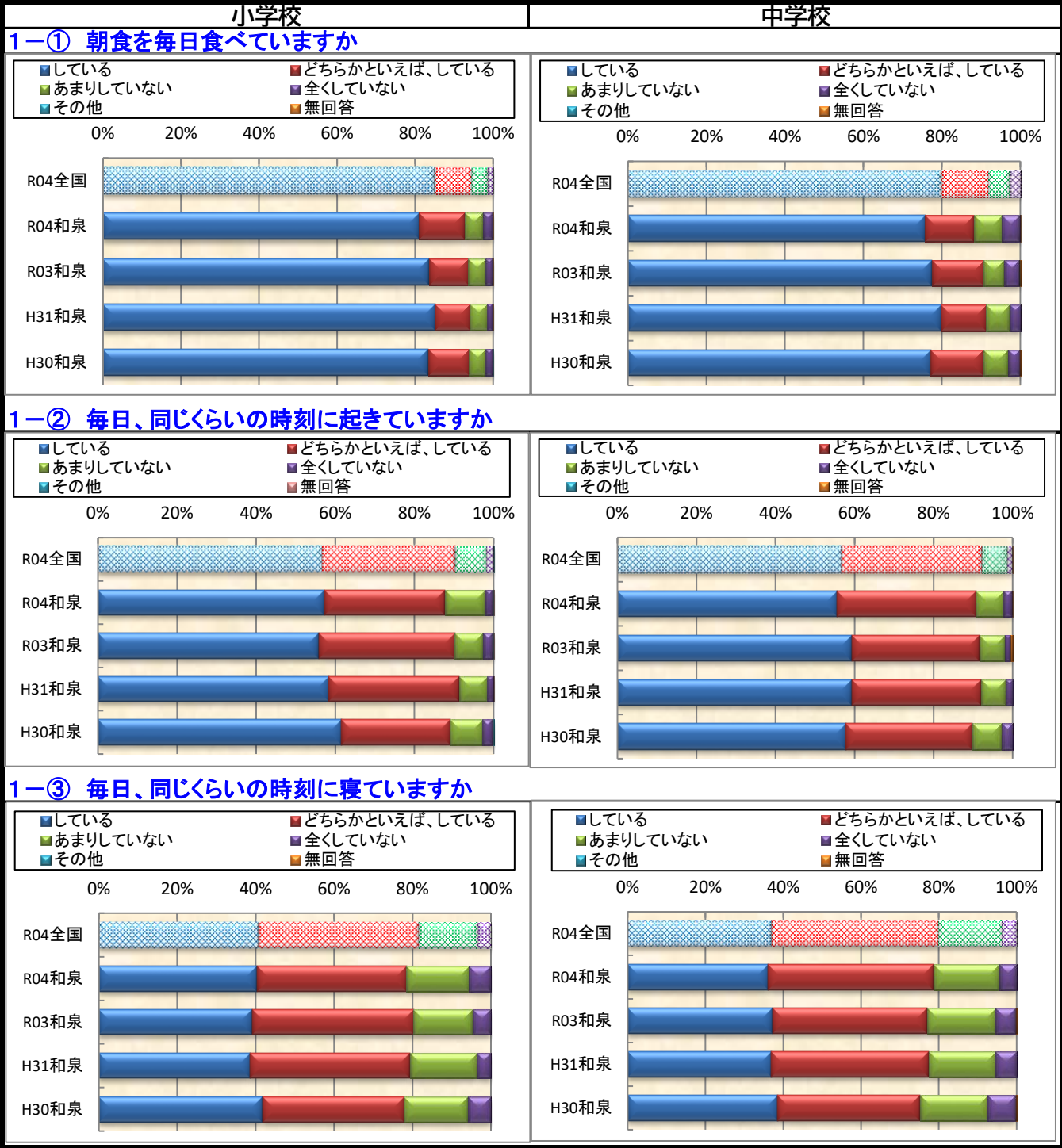


中学校

◆ 和泉市中学校全体 - - - 全国(公立) ◆ 大阪府



1. 生活リズムが身についている子ども

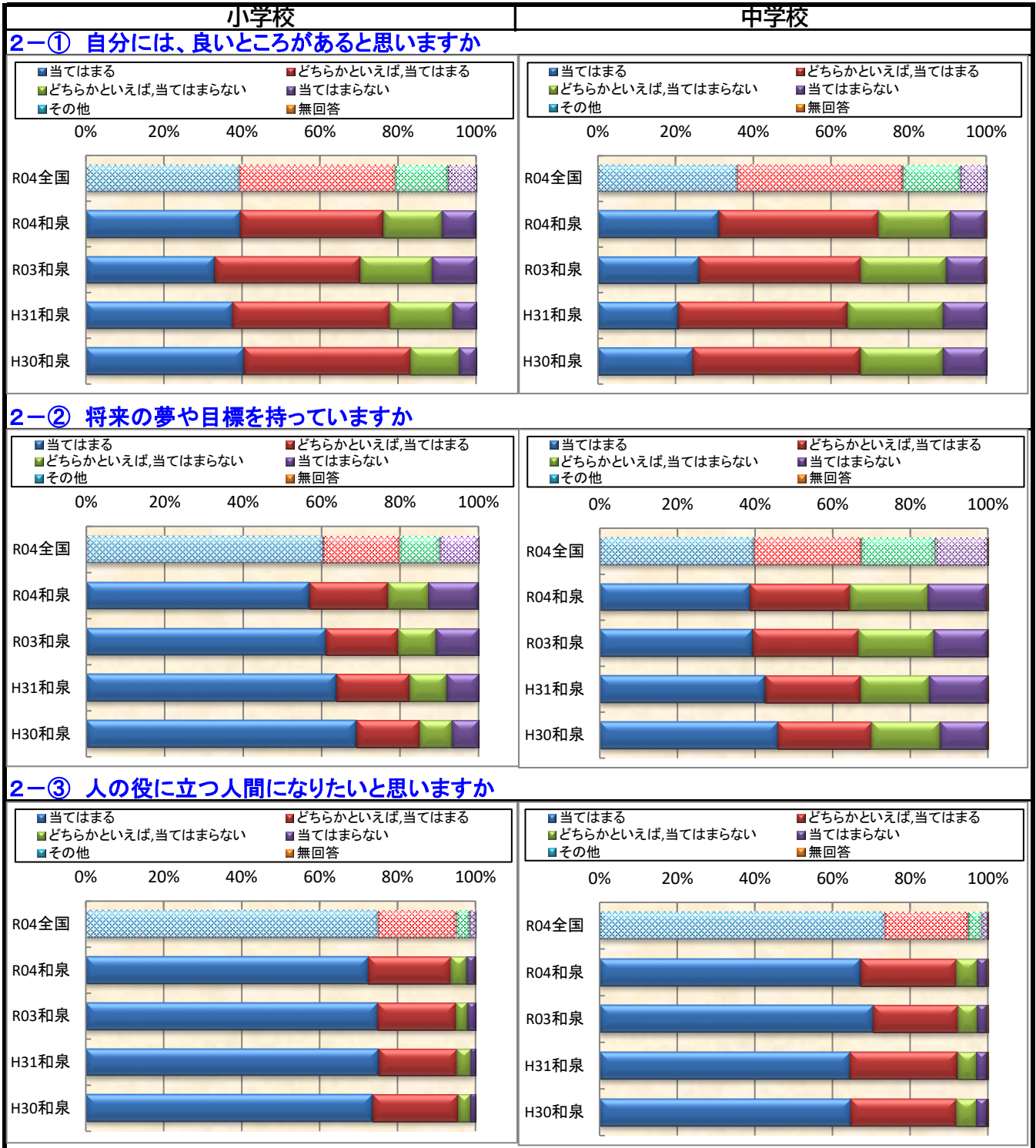


◇1-①では、「朝食を毎日食べている」子どもの割合が、小学校・中学校ともに減少しており、特に中学校では課題の1つといえます。1-②「毎日決まった時刻に起きる」、1-③「決まった時刻に寝る子ども」の割合は、小学校・中学校ともに「あまりしていない」割合が増加しています。今後も規則正しい生活や食の重要性を子どもたちに伝えながら、家庭と協力し、実生活のリズムを整え、朝食を毎日食べている子どもの割合を増やす取り組みが必要であると考えられます。

保護者の皆様へ

◎朝食を毎日食ふことや早寝早起きなど、望ましい生活習慣を身につけることは、子どもたちの「学びの土台」となります。また、しっかりと朝食を食べ、十分な睡眠をとることにより、こころや体が健やかに成長します。充実した毎日を送れるように、ご家庭でもお子さまの生活リズムを整えてあげてください。

2. 自分を大切に、他者を思いやる子ども

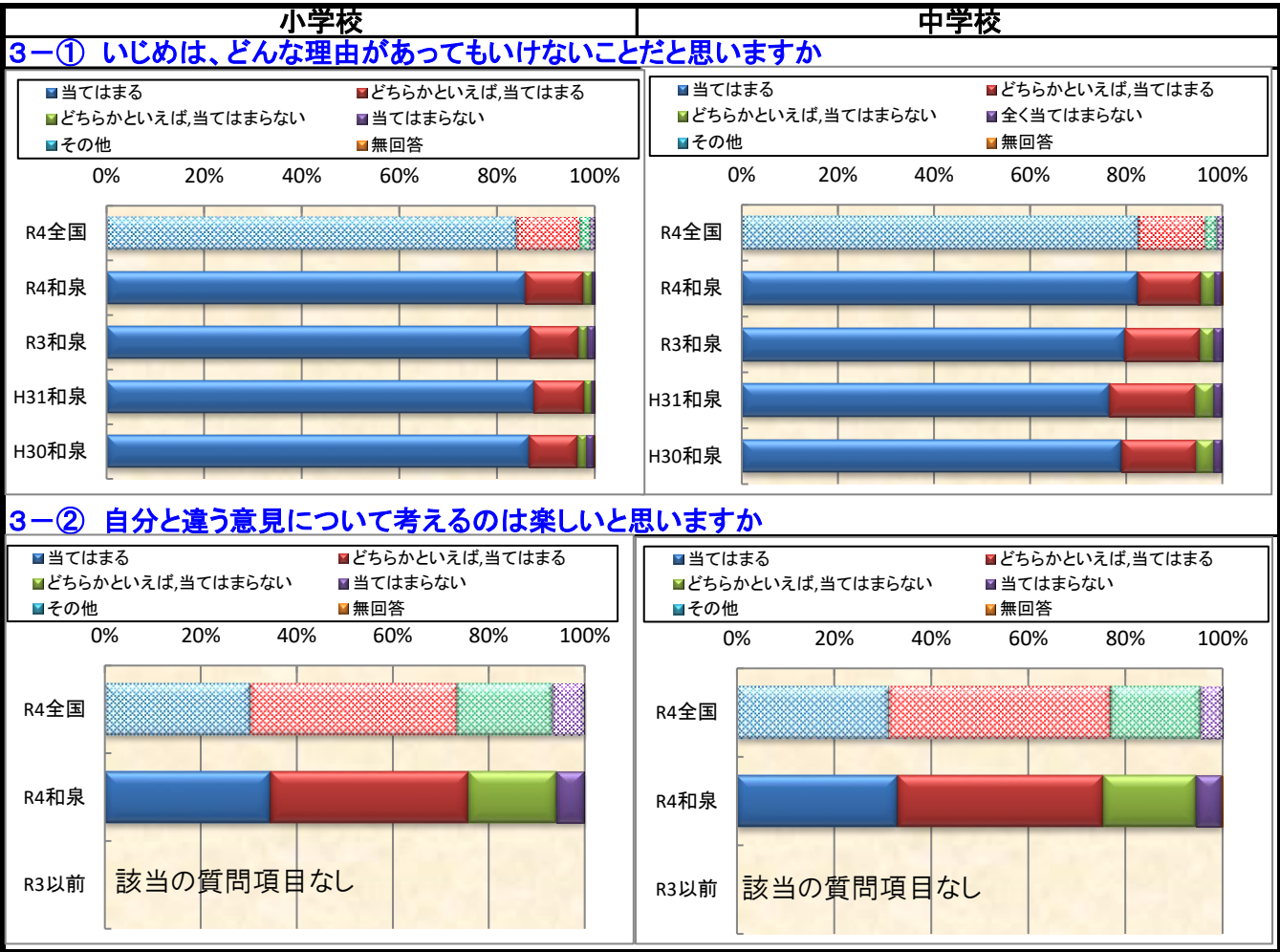


◇2-①「自分には、良いところがあると思うか」の項目では、肯定的な回答をした割合が小学校・中学校ともに増加しています。また、2-②の「将来の夢や目標を持っているか」の項目では、小学校・中学校ともに肯定的回答が年々減少しています。2-③「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目では、小・中学校ともに昨年度とほぼ同じで、全国水準に近づいてきています。今後も目標をもち、自己有用感の向上をめざした取組みを継続する必要があると考えられます。

保護者の皆様へ

◎子どもの自己有用感の向上には、子ども自身が「人の役に立っている」や「大切にされている」という実感を持つことが重要です。そのためには、毎日の生活の中で周りの大人が、子どものがんばりや努力を知り、そのことを積極的に認め、励ますことが必要です。また、「人の役に立っている」という実感は、子どものやる気を育み、さまざまな力を伸ばす原動力となります。将来の夢や目標を持つことにも良い影響を与えていきます。ご家庭でもお子さまに役割を与え、お子さまが良いことをしたときには、どんどんほめてあげてください。

3. 多様性を認め、いじめを許さない子ども

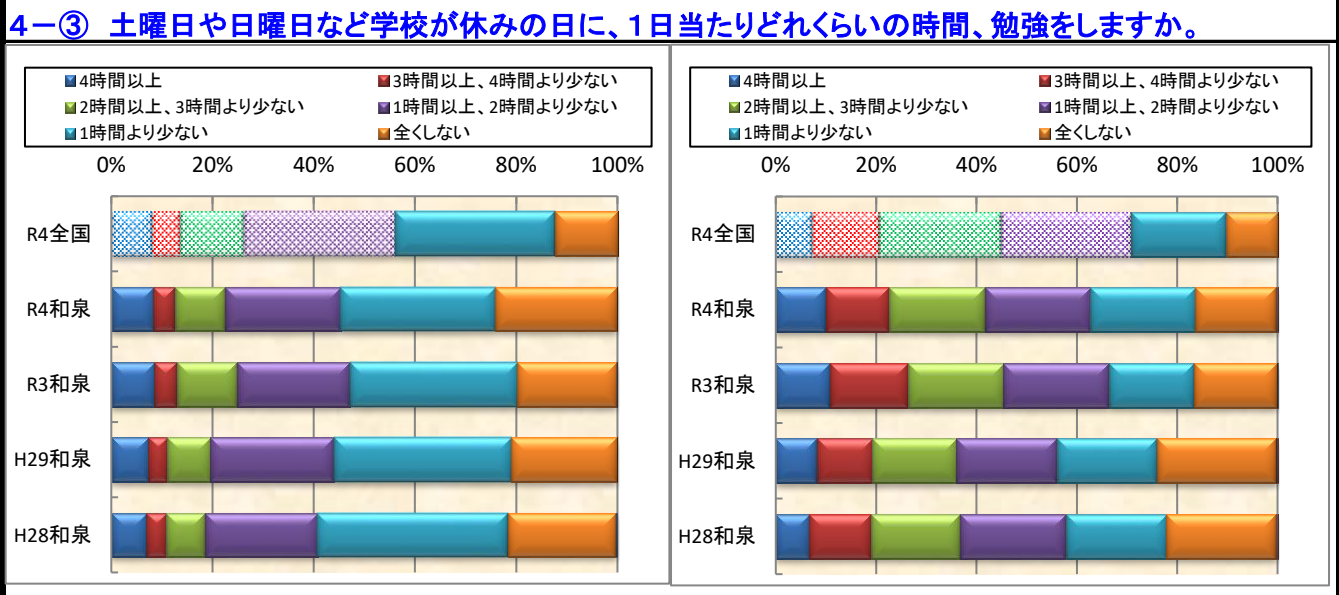
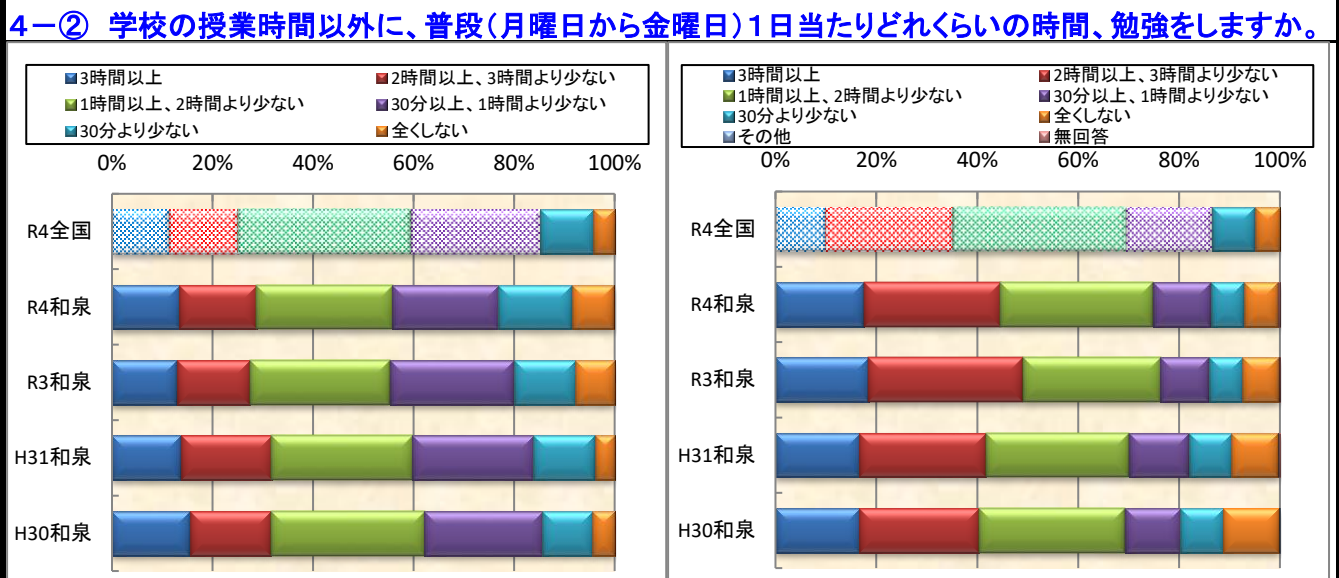
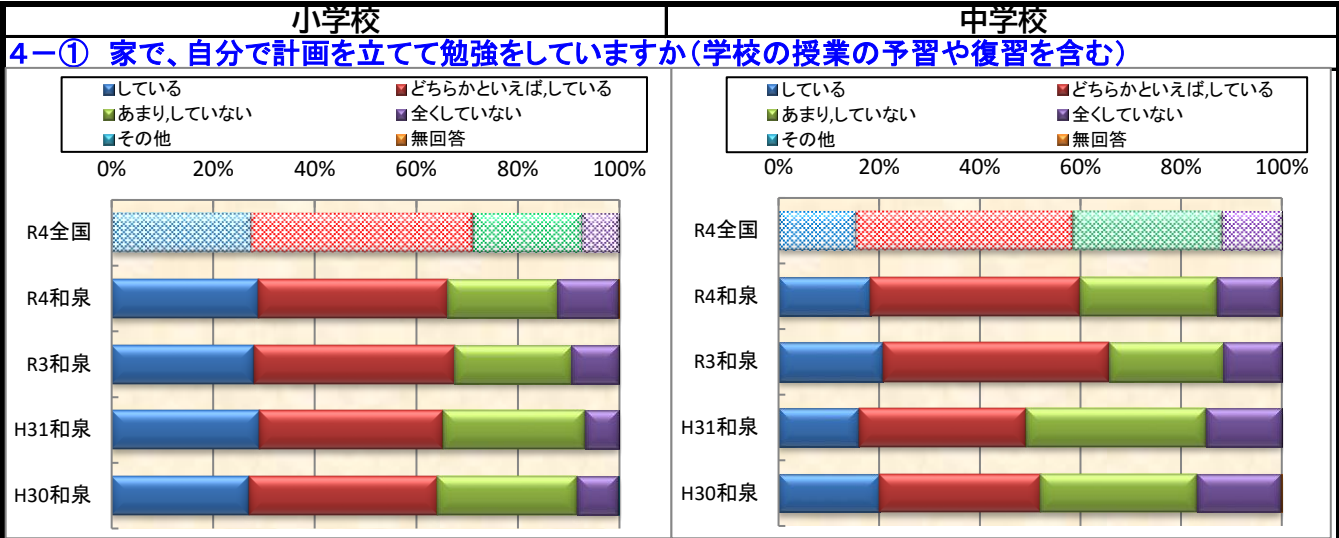


◇3-①「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の項目において、肯定的に回答した割合が、小学校・中学校ともに、昨年と同様となっていますが、小学校においては、全国より高い比率となっています。また、3-②「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」の項目についても、小学校・中学校ともに強い肯定として回答した割合が全国より高い数値となっております。今後も、多様性を認め、いじめを許さない気持ちを持ち、人権感覚や人権意識を育む取組みを継続していくことが重要だと考えます。

保護者の皆様へ

◎多様性を認め、いじめを許さず、自他を尊重しながら「よりよい人間関係」を築くためには、物事の善悪についての的確に判断し、自ら正しいと信じてるところに従って主体的に責任ある行動をとることが大切です。そのためには、自由な考えや行動のもつ意味や物事の善悪について、お子さまとともに考え、話し合う場面を持つようにしてください。

4. 自らすすんで学習をする子ども

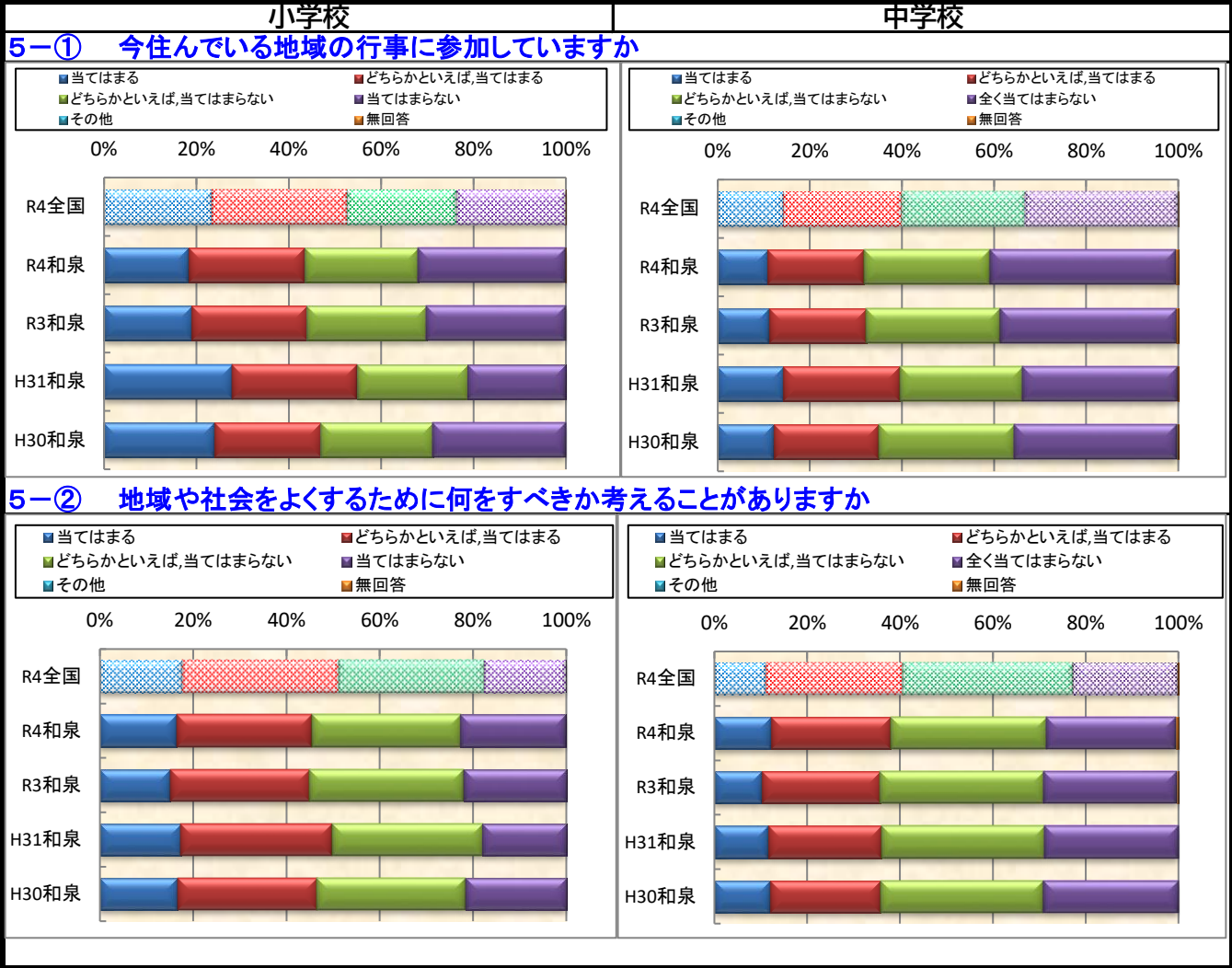


◇4-①「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の項目で肯定的な回答が、小学校・中学校ともに減少傾向です。ただ、中学校では全国と同等の数値となっています。自分で勉強の計画を立て、自らすすんで学習に取り組むことに関しては、小学校において依然として課題があります。本項目で強い肯定で回答した児童生徒の国語、算数・数学、理科の平均正答率が高いという結果も出ています。4-②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の項目では小学校・中学校ともに「2時間以上勉強する」と回答した割合は全国を上回っている数値です。一方で、「30分より少ない」、「全くしない」と回答した割合は、小学校・中学校ともに全国より高く、課題となっています。4-③「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の項目では、小学校・中学校ともに3時間以上勉強すると回答した割合が一定数いるものの、1時間より少ない、全くしないと回答した割合は全国よりも高く、家庭での学習時間で2極化傾向がみられます。

保護者の皆様へ

◎家庭での学習時間を確保できている児童・生徒がいる一方で、家庭学習の習慣が定着していない児童・生徒がいることが課題です。家庭学習は、学校で出された宿題だけでなく、授業の予習や復習など、自分で計画を立てて勉強することが大切です。自分の学習の進み具合や苦手なところなどを確認しながら、家庭学習の習慣づくりをしていくことが必要です。是非、お家の人の温かい声かけなどで支援してあげてください。

5. 地域と関わり、ふるさと和泉を愛する子ども

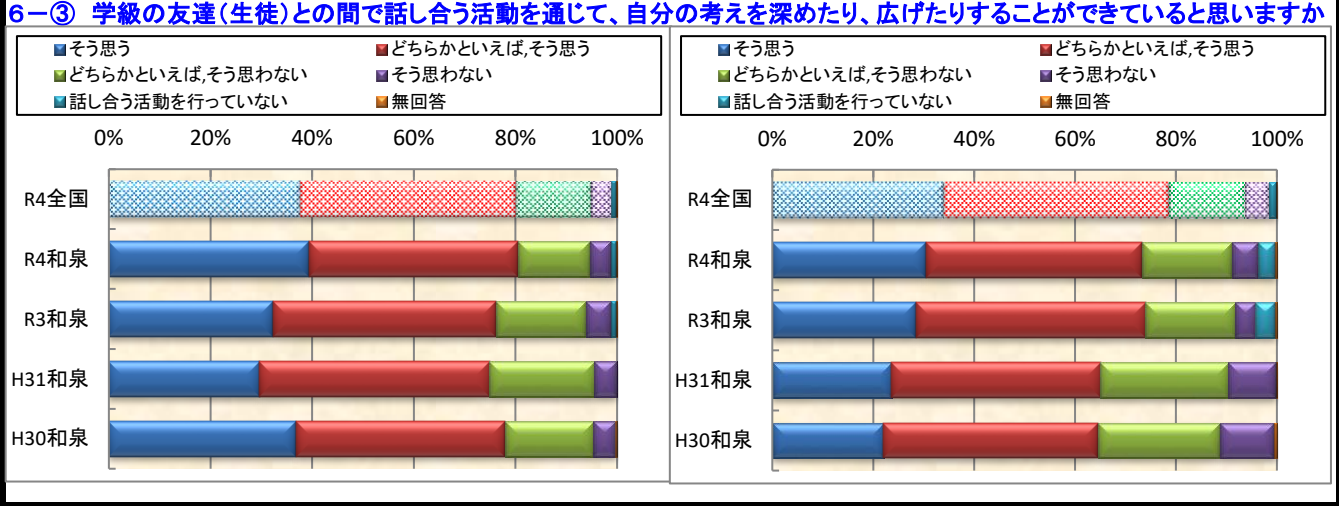
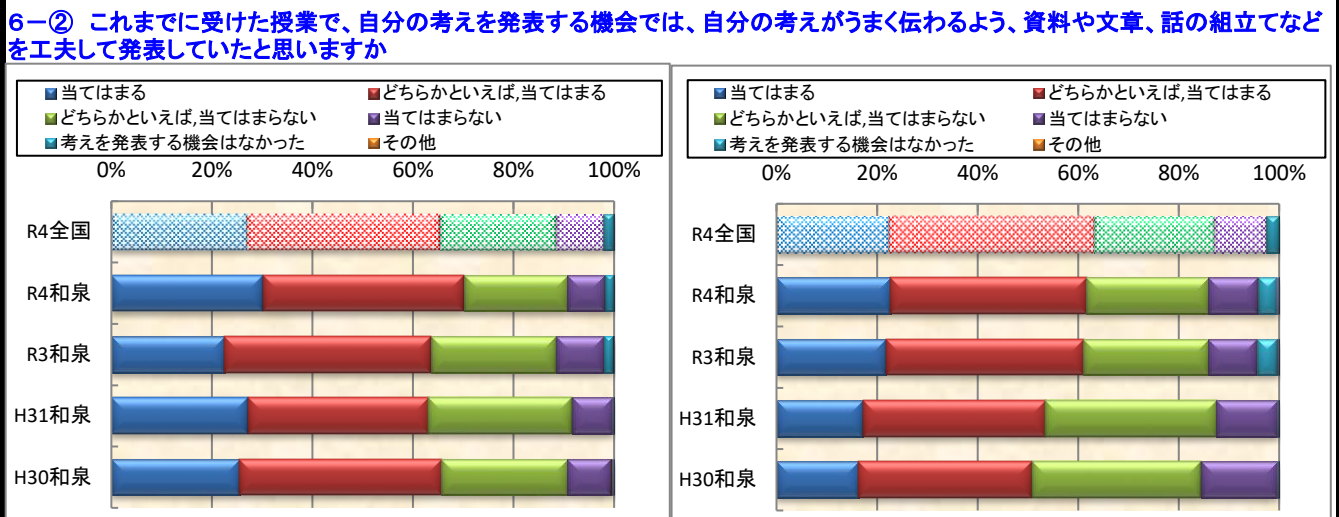
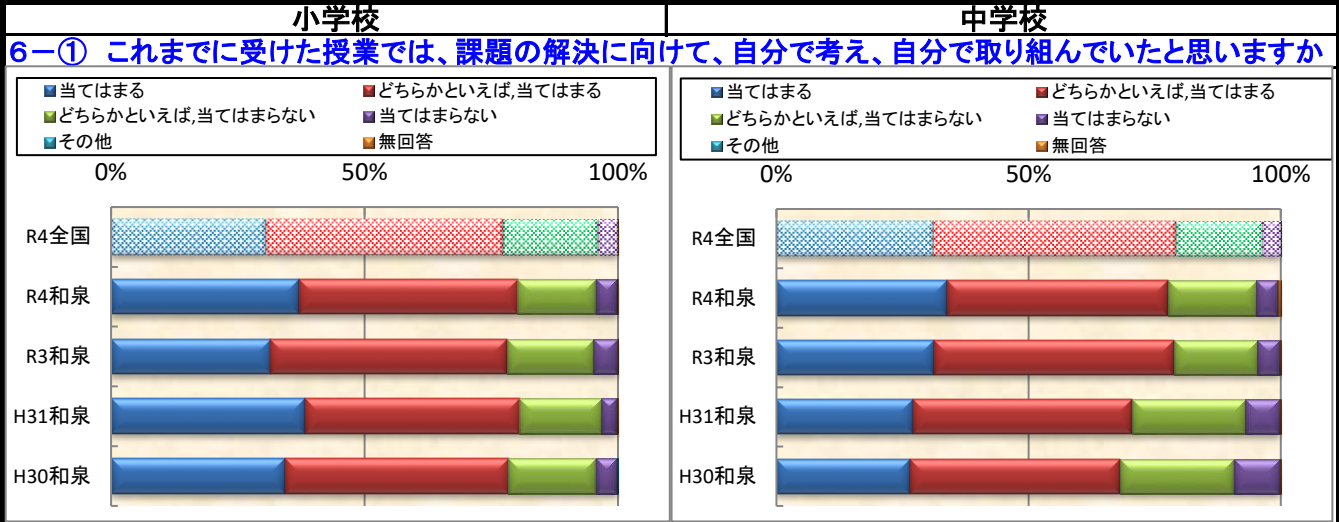


◇5-①「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の項目での肯定的な回答が、昨年度と比べ小学校・中学校ともに、ほぼ横ばいの数値、全国に比べ顕著に下回っています。長期にわたる新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、地域の行事が中止となったり、縮小されたりしていることも原因に含まれると思います。5-②「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の項目でも、昨年度と比べて、小学校・中学校ともに同程度となっています。地域や社会をより良くするために何か手段を考えるなど、自分たちが生活する地域や社会に対して関心が高まるよう、今後も継続して、子どもたちによるボランティア活動など地域への関わりを増やすための取組みが必要です。

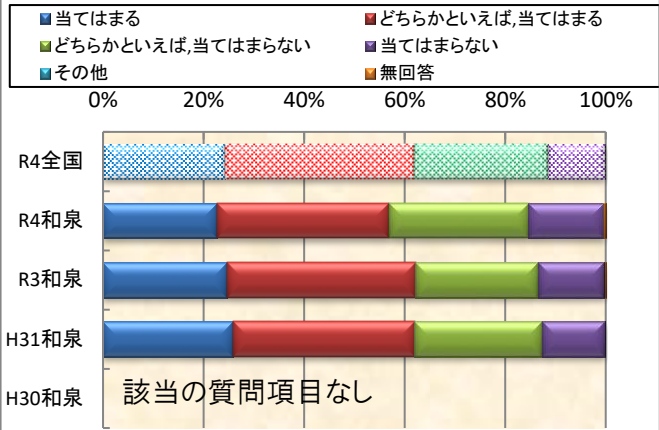
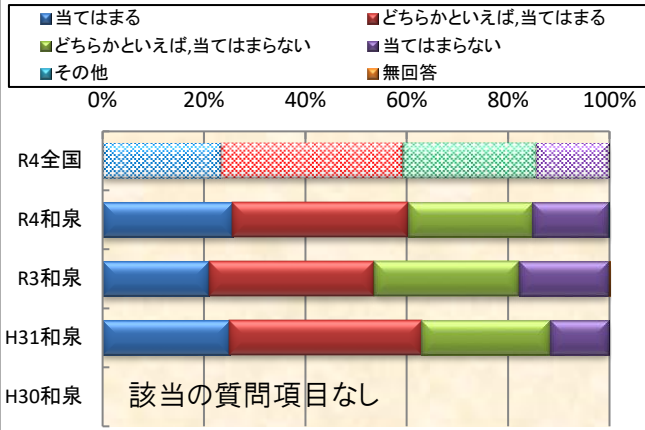
保護者の皆様へ

◎子どもたちが地域の方々とつながりを持つ機会をつくることは、子ども自身がふるさとのよさを実感できるとともに、子どものコミュニケーション能力の育成に繋がります。子どもとともに、地域の自然や文化などに積極的に関わり、そこに携わる地域の人々との触れ合いを深める機会を積極的にもつようによしてください。

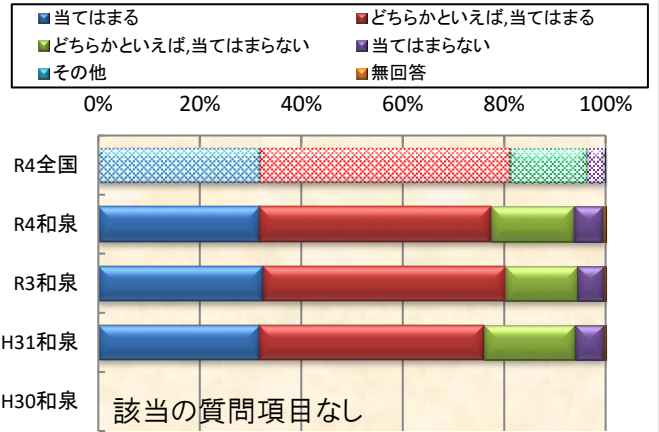
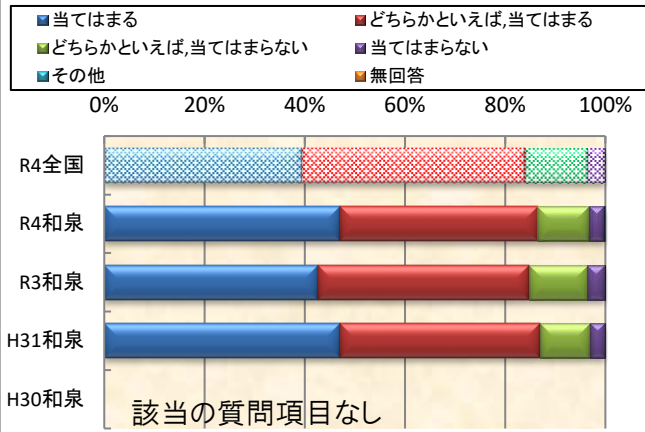
6. 楽しく学び続ける子ども



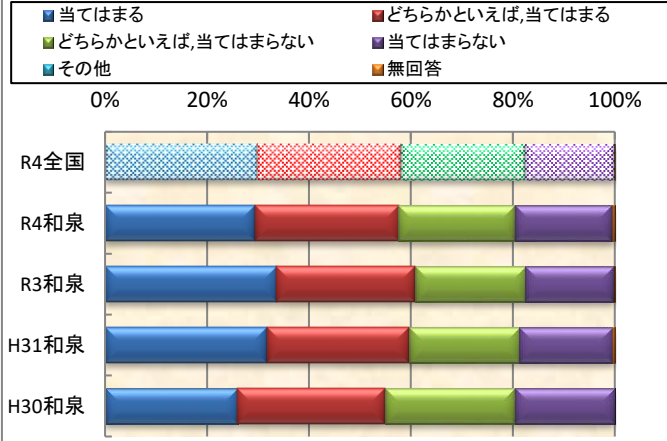
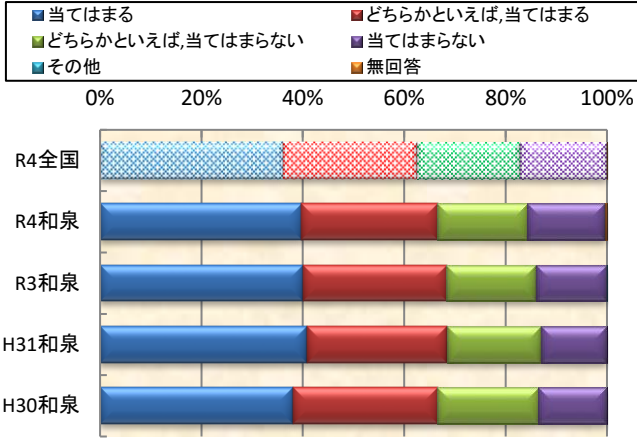
6-④ 国語の勉強は好きですか



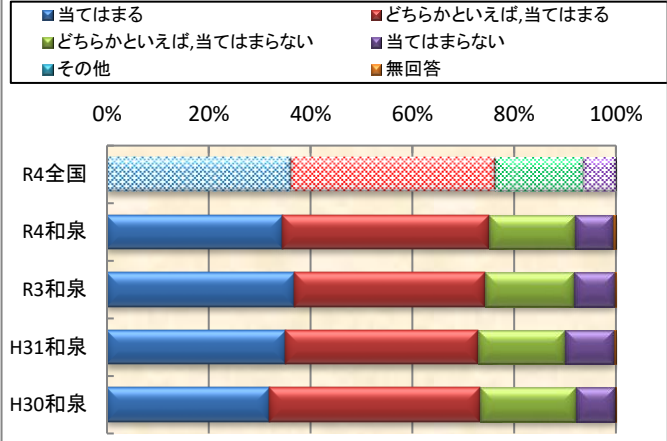
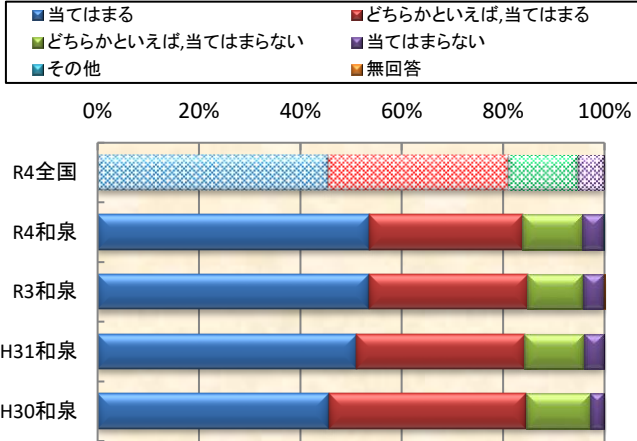
6-⑤ 国語の授業の内容はよくわかりますか



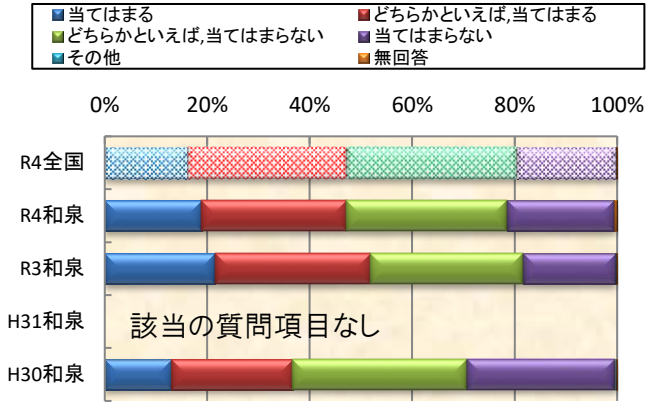
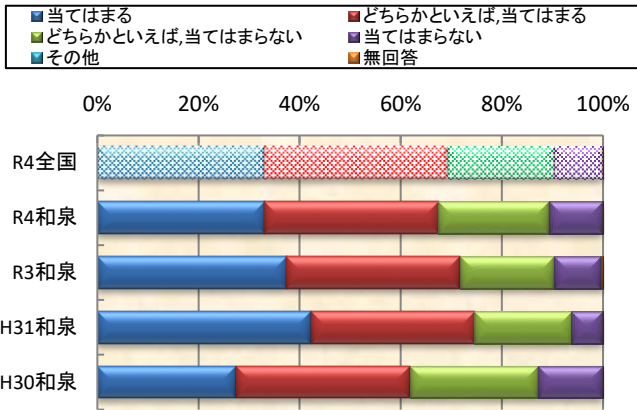
6-⑥ 算数・数学の勉強は好きですか



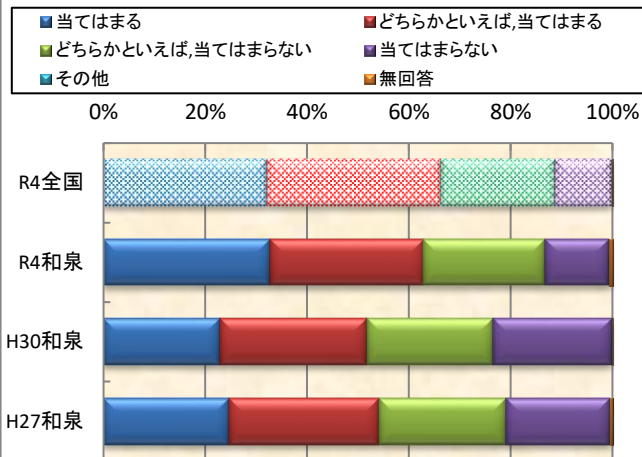
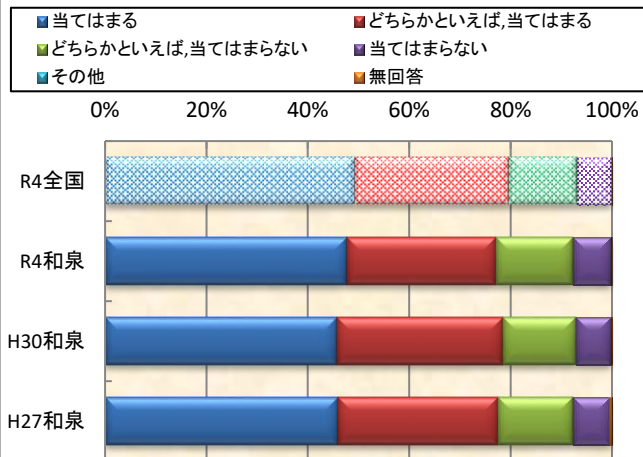
6-⑦ 算数・数学の授業の内容はよくわかりますか



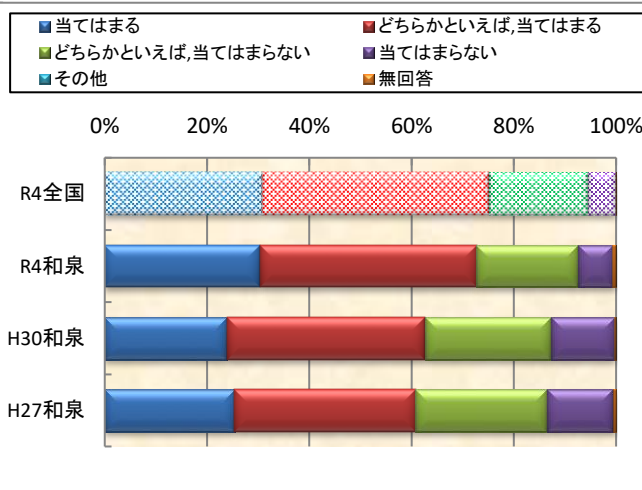
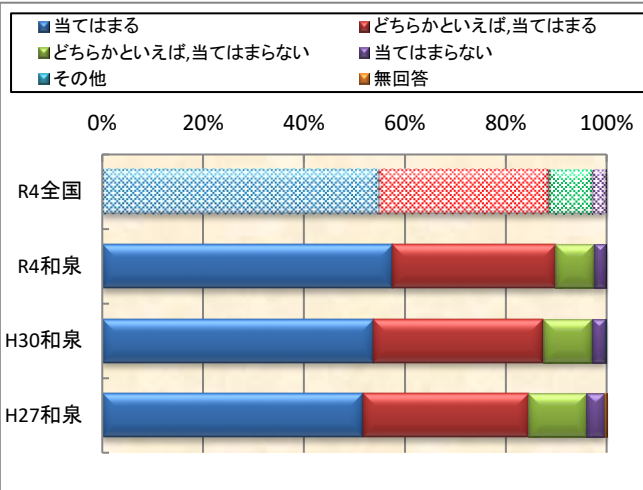
6-⑧ 算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか



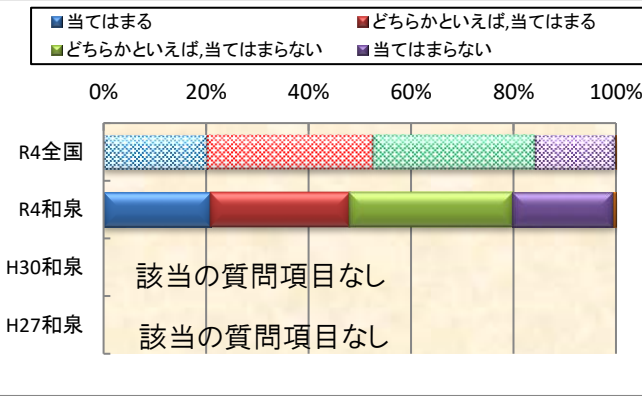
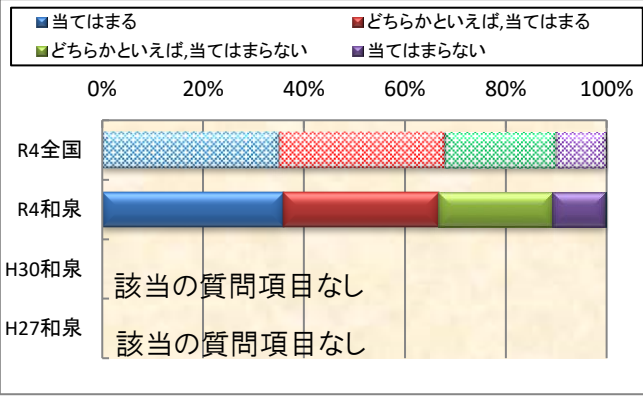
6-⑨ 理科の勉強は好きですか



6-⑩ 理科の授業の内容はよくわかりますか



6-⑪ 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか



◇6-②「これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の項目での肯定的な回答は、小学校で改善傾向にあり、全国値を超える結果となりました。6-④⑤から、国語に関して、「好き・内容がよくわかる」の割合は、小学校では改善傾向にあり、全国水準となっています。一方で、中学校はやや減少しました。6-⑥⑦から、算数・数学に関して、「好き・内容がよくわかる」の割合は、昨年度とほぼ同等で、概ね全国水準となっています。また、6-⑧⑩については算数・数学、理科の「授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の項目では小学校が全国水準となっていますが、中学校では課題が見えます。今後も実生活に即した課題を設定し、子どもたちが学習への目的意識をもちながら、これからの未来を創る「資質・能力」を伸ばすことが重要であると考えます。

保護者の皆様へ

◎基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、学んだことを活用する力や思考力・判断力・表現力等を含む確かな学力が、これからの社会を生きる子どもたちには求められています。学校では「主体的・対話的で深い学び」となるよう授業改善をしています。是非、ご家庭でもお子さまとの対話を大切にしながら、お子さまの疑問・質問に対し、即時に答えるのではなく、「なぜだと思う？」と問いかけてみてください。そして、過去に身につけた知識などを基に、その知識を活用させるなど「子ども自身が考える」ためのアドバイスを投げかけてみてください。ご家庭でそのような機会をもち、お子さまの学びに向かう力を伸ばしてあげてください。